

塾に通うだけで成績が良くなるわけではありません。ガラパゴールでも同様です。ガラパゴールに入会しただけで成績が良くなるわけではありません。ガラパゴールで工夫して学び、



とことん質問すれば成績が伸びるだけでなく、自習性や計画性、そして、コミュニケーション能力など様々な点で成長できるように指導しています。

ガラパゴールは塾とは異なり、授業をメインにしていません。あくまでも授業はサブであり、自習と質問がメインです。このようなシステムの学びの場を運営しようとした理由は簡単です。授業を聞いているだけの『受け身な学び』では本当の学力は身に付かないと痛感する経験が多かったからです。また、知識を身に付けること（インプット）より、自分の考えを表現すること（アウトプット）の方がはるかに重要で、学力に結び付くだけでなく、社会でもより必要とされる能力だからです。実際に、来春高校生になる世代から受験する新大学入試ではそのようなアウトプットを問われる問題が出題されます。ですから、ガラパゴールでは対話を重視して指導しています。

「既存の塾のシステムは子どもたちのためにならない」「アウトプットを重視しなければいけない」は実体験から常に感じてきたことなのですが、それを裏付けるデータがありました。全国学力テストにおける通塾率と学力の関係のデータです。通塾率が1位の神奈川県と奈良県は、学力の順位は25位と20位です。3位の兵庫県は10位ですが、4位の大阪府と和歌山県は44位と28位。通塾率が高い県は学力が平均以下の県が多いのです。逆に、学力が1位の福井県は、通塾率では38位。2位の石川県は39位、3位の秋田県は46位、4位の富山県は29位、5位の愛媛県は22位。

このように学力順位が良い県は通塾率が低い県ばかりなのです。自分の意志とは関係なく、強制的に通わされる塾にはなんの意味もないのがこのデータでよくわかります。

塾に通っても学力アップにはつながっていないことが数字で証明されているのです。つまり、多くの既存の塾は、答えやテクニックを与えることで、子どもたちから「考える機会」を奪っているため、本当の学力は身に付いていないのです。深く理解していないのに、テクニックを強調して伝えてしまうため、学力がついたかのような錯覚に陥っているだけで、実は本当の学力は身に付いていないのです。

すでにこのコラムで紹介したかもしれませんが、かつて勤務した中学受験専門塾では、学力の低いクラスの生徒ほどその塾に長年通った生徒の割合が増えていました。つまり、『その塾に長く通えば通うほど学力は低い』のです。あり得ない状態でした。自分の意志で通っていない子どもたちにモチベーションがないのは当然のこと、それだけでなく、そのクラスを担当する講師は、新人やスキルの低い講師（アンケート結果の悪い講師など）なので、最悪の悪循環から抜け出せません。

その状況を見て、早期教育と勉強の強制は逆効果だというわたしの考えは正しいと確信したのです。（また、スキルも意欲もない講師を雇わないことも決心しました。）

さて、今、ガラパゴールに自分の意志ではなく、保護者の方に指示されてきているなあと感じるお子様がいらっしゃいます。残念ながら高校生でもいらっしゃいます。おそらく、そのガラパ生は、勉強時間（自習時間）に見合った成績はとれないでしょう。また、受験の時期に苦勞するでしょう。なぜ、指示されてきているとわかるのか？答えは、簡単です。

- ・まったく集中していない。（よく寝ている。）
- ・スマホを持って教室から頻繁に出入りする。
- ・（わたしの）足音などに異常な反応をする。または、奥の方の席に座る。

そして、これらの行動は、中学時代に勉強を強制されていたときに、わたしが自宅でしていた行動でもあります。この状況では、勉強（するフリ）は長時間する → 集中していないのでまったく身に付かない → 長時間勉強して（いるつもりでも）結果がでないのもっと勉強嫌いになる の悪循環です。もう一度、ガラパゴールの原点に戻ってください。『お子様にガラパゴールに通うことを強制せず、集中できるときにお子様の意志で通う』ことを徹底していただければ幸いです。